

オオハクチョウ（カモ科） 全長150～180センチ

5月28日、市内の田植え作業はほぼ終盤に入り、広大な田んぼに再び静かな世界が戻ってきた。

大浦沼周辺の田んぼの中に、オオハクチョウが休んでいた。他には見当たらずこの1羽だけである。こんな季節まで残っているのは、怪我をして飛べない事情などがあった場合などです。

ぐったりした様子もなく水草なども食べていることから、様子を見ることにして毎日通うことにした。

6月8日、沼の近くの農道で見つかった。長い首を伸ばし周囲をうかがっていた。沼の周辺には釣り人も無く、農作業をしている人も見当たりません。



田植え直後の田んぼ。

やがて安心したのか、バタバタと羽ばたきをした。見た様子から羽の怪我はないことが分かり、救護の必要はなくなった。

翌日の9日を最後に、姿が見えなくなりました。遅れてしまったが、遠いロシアの繁殖地を目指して一人旅をしていることでしょう。



周囲をうかがっている。



翼を広げた。



長い首は泥だらけ。